

家庭用ビデオテープレコーダー

展示場1階の「家庭の消費電力とエネルギー」では、1978年発売のVHS式ビデオテープレコーダー(ビクターHR-3600)を展示しています(写真1)。

テレビ番組を録画する時、現在では家庭用テレビに専用のハードディスクを取り付けてデジタル録画する方法が主流ですが、少し前までは磁気テープにアナログ記録する方式が一般的でした。

映像信号を磁気テープに録画するビデオ機器が発売されたのは1956年の

ことで、当初は大変高価なため、放送などの業務用がメインでした。家電製品として本格的に普及するようになったのは1970年代になってからです。特に、1975年に「ベータマックス」規格、1976年に「VHS」規格の家庭用ビデオデッキがそれぞれ発売され、普及を決定づけました。両規格とも、幅1/2インチ(12.65ミリメートル)の磁気テープをカートリッジに収めたカセット式テープを使い、回転式ドラムヘッドで画像と音声を記録します。

その後は、記録できる画質や音質の向上、録画の長時間化などが図られ、また両規格のテープを使った家庭用ビデオカメラも普及しました。しかし、2000年代に入るとDVDやハードディスクに記録するデジタル方式にとって代われ、家庭用ビデオテープレコーダーはすでに国内主要メーカーが生産を終了しています。そのため、これまで蓄積された多くのビデオソフトが活用できない状況も生じています。

同じ「家庭の消費電力とエネルギー」では、2000年代に発売されたハードディスクレコーダーも展示していますので、併せてご覧ください。

嘉数 次人(科学館学芸員)



写真1:ビデオテープレコーダー



写真2:ビデオテープ。
 上がベータ用、下がVHS用